

第6回日本ユマニチュード学会・福岡総会

自治体とユマニチュード
～社会基盤としての実践～

『ユマニチュードを踏まえた 内科日常診療の実際』



医療法人福雅会サギス中クリニック
院長 塚本雅子

利益相反開示

発表者名： 塚本 雅子

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき
COI 関係にある企業などはありません。

『ユマニチュードを踏まえた内科日常診療の実際』

目的

- 内科日常診療において認知症患者への対応を紹介することでユマニチュードの有用性を考察する

方法 (事例 提示)

- 自己紹介
- 事例紹介(3事例)

結果

- ユマニチュードを基にした対応の変化で患者・家族に笑顔が見られ、治療に積極的に協力してくれるようになった。

まとめ

- ユマニチュードの技法は認知症の患者だけではなく、すべての患者にも有効で、診療スタイルの変化をもたらした。
- 人を大切にして、尊厳を守るという人生観の変化にもつながった。

自己紹介

- I. 大阪市福島区の内科無床診療所の開業医
(後期高齢者の割合60%、認知症11%)
- II. 在宅療養支援診療所届出
(月に15~20件の訪問診療実施)
- III. コロナ往診チームに拠点診療所として所属
(KISA2隊大阪)
- IV. ユマニチュードとの出会い
YouTube視聴で感動！
自身の診療で見よう見まねで試してみた！



事例①【外来診療】

80代、女性、独居。

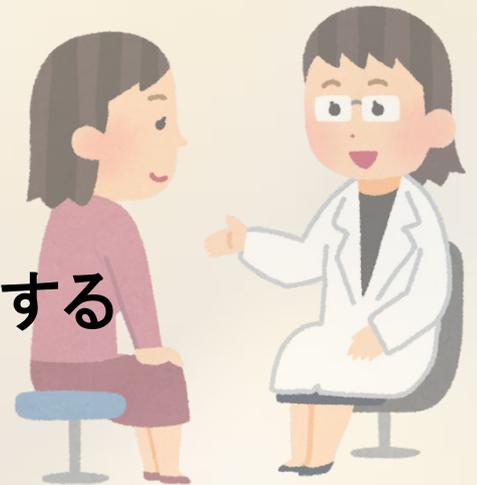
＜病名＞#糖尿病#高血圧症#高脂血症

＜現病歴＞同居のご主人の看取りをされてから独居。

2015年、2週間に1回の通院を忘れがちになり、認知症と診断。取り繕いの症状が見られ、内服管理困難となった為、近隣に住む娘さんに連絡を取る。娘さん家族の協力で、穏やかな表情となり、現在は笑顔で受診されるようになる。

＜対応の仕方＞

- * アイコンタクト
- * 笑顔で接する
- * 診察の時腕に振れる
- * ご主人の看取りの時よく頑張られたと称賛する
- * 娘さんたちへの感謝を述べる



事例②【在宅医療】

90代、女性、独居、要介護5。

＜病名＞#腎不全#心不全#認知症#低栄養#褥瘡
#廃用症候群

＜現病歴＞月2回の訪問診療、訪問看護による処置、訪問介護サービス(入浴・食事等)を受けていた。在宅チームで花見やお誕生日の会をしていた。徐々に食事量が減り、発語が少なくなり、血圧が低下してくるようになり、ご家族とも最期の療養先を話し合っていたが、最期は病院を選ばれた。

＜対応の仕方＞

* 挨拶をしてお部屋に入り、自己紹介をしてお名前を呼ぶ。お体に触れながら開眼されるのを、お声掛けしながら待つ。「あら、先生、いつもありがとうございます。」

* 読書の好きな方で、知識も豊富な方だった。「何か夢を見られましたか？」や季節行事の話をするようにしていた。

事例③【クラスター発生施設】

コロナ第6波の際、大阪市保健所依頼でクラスター発生した高齢者施設にKISA2隊の一員として感染制御に入る。施設内の80%がレッドゾーン。入居者の多くは認知症があり、身体表現や安静が保てない。入居者の検査終了後、防護服(PPE)装着して居室に2～3名のチームで入り、抗ウイルス剤の治療の点滴を実施する。

＜対応の仕方＞

* 挨拶をしてお部屋に入り、自己紹介をする。お名前がわからないので、女性は「吉永小百合さん」、男性は「長谷川和夫さん」と呼びました。お体に触れながら、「今から悪い風邪を治す点滴をさせて貰いますね。頑張って協力して貰えますか？」(頷きながら腕を差し出して下さる方もある。)
「ありがとうございます。これで早く治しましょうね。」点滴が終了したら、「よく頑張られましたね。ご協力ありがとうございました。」とお声かけをする。

結果・考察

ユマニチュードを基にした診療の対応の変化で患者・家族に笑顔が見られ、治療に協力してくれるようになった。

安心したという感想を頂いた。

患者・家族だけではなく、その場に居合わせた当院職員、在宅チームメンバー、施設職員にも笑顔が見られた。

ユマニチュードの技法で接することで、認知症の患者のみでなく、その方を取り囲む周囲の方にも笑顔・安心が届けられることを感じた。

認知症の患者のみではなく、他疾患の患者にも通用する技法であり、私自身の診療スタイルの変化をもたらしている。

全ての人に接する時に必要な技法ではないかと考える。

まとめ

「見る」「触れる」「話す」「立つ」の柱を使って働きかけることで、お互いを尊重し合い認知症の人とポジティブな関係を築こうとするケア技法ですが、認知症のみならず、全ての人に通用すると思います。少なくとも私はユマニチュードを知ることによって、診療スタイルが変化しましたし、人を大切にして、尊厳を守るという人生観の変化にも繋がりました。

「この街に住んでいて良かった」「ここに居ても良いんだよ」という居場所作りが私の夢です。医師としてできることとして、自分や仲間が入れる介護医療院や、『たまり場』のような認知症カフェを作りたいなと思い描いています。

その場所にはユマニチュードが必須だと思います。

ご清聴ありがとうございました。